

一第96編一 執念のセルフビルド^{*1}・マンション

「沢田マンション」は、「沢マン」、あるいは「軍艦島マンション」と通称される、高知県高知市薊野北町に建設された集合住宅である。鉄筋コンクリート建築を専門職として学んだり手掛けたりしたことのない夫婦二人、後には子も加わり造りあげたセルフビルドによる希有な物件である。550坪の敷地に、当初は「10階建て／100戸」をめざした大きな計画だったが、現在は地下1階地上5階建て（一部6階）の鉄骨鉄筋コンクリート構造で、入居戸数約70世帯、居住者約100人を数える。

そのキーパーソンである沢田嘉農^{*2}（1927～2003年）は、高知県に生まれ、幼少時に印刷物で見たハイカラな「アパート」に憧れ、集合住宅の建築・経営を一生の仕事として思い定める。尋常小学校卒業後、祖父の援助を受けて製材業を始め、27歳で高知県中村市（現在の四万十市）に移り、地元の製材所で働く。大工・棟梁の弟子入りや修業経験も無いまま自ら現場を手掛け、土建屋として建て売り住宅の販売・分譲を開始し、その後はアパート経営に乗り出す。1971



写真96-1 沢田マンション全景

*1
Self-build: 自らの家を自分で建てる行為で様々な方法がある

*2
沢田嘉農
(1927～2003)



写真96-2 建設改修工作機械室

年に高知市薊野に550坪の土地を購入し、建築確認は取らないまま沢田マンションの建設に着手する。それが可能であったほど、役所の対応は大らかな時代ではあった。人から借りたブルドーザーと大型パワーショベルで地下6m以上を岩盤まで掘り抜き、その上に柱を建てる。配筋後のコンクリート打ち込みには小学生の娘まで動員したという。ちゃんとした図面もなく自らの手で工事を進めていったが、屋上には今も残る夫妻自作のクレーンや製材所が設けられた。すなわち、建築現場が同時に資材の製造工場であった。2003年に沢田嘉農が亡くなった後は、増築はせず改装や補強などの現況維持にとどまり、今日に至る。

沢田夫妻の当初の希望で、母子家庭など社会的に困窮状況にある人々に対して入居が優先されていたが、近年は若者の入居が増加傾向にあり、住まいを介在した一種の共同体を構成している。近年は住人が発信するホームページやブログなどでその出来事やライフスタイルを詳細に垣間見ることができ、こうした住み手の情報発信も異色である。初めてこの現場に足を踏み入れたとき、それまで学んできた建築やまちづくりの概念や制度、そして技術の足下がぐらぐら揺らいでいくような、目眩にも似た感覚を覚えたことを今も忘れない。



写真96-3 屋上の菜園